〔萬葉集十六 有由緣雜歌〕大船爾、小船引副、可豆久登毛、志賀乃荒雄爾、潛將相八方、

右以、神龜年中、大宰府、差筑前國宗像郡之百姓宗形部津麻呂、充對馬送粮船梅師也、于時津麻呂、詣於糟屋郡志賀村白水郎荒雄之許語曰、僕有小事、若疑不許歟、荒雄答曰、走雖異郡、同船日久、志篤兄弟、在於殉死、豈復辭哉、津麻呂曰、府官差僕、充對馬送粮船梅師、容齒衰老不堪海路、故來祗候、願垂相贊矣、於是荒雄許諾、遂從彼事、自肥前松浦縣美彌良久埼發船、直射對馬渡海、登時忽天暗冥、暴風交雨、竟無順風、沈沒海中焉、因斯妻子等、不勝恃慕、裁作此謌、

〔續日本紀二十 淳仁四〕天平寶字七年十月乙亥、左兵衛佐正七位下板振鎌束至自渤海、以擬人於海勘當下獄、〇略中 初王新福之歸本蕃也、駕船爛脆、送使判官平群虫麻呂等、廬其不完、申官求留、於是史生已上、皆停其行、以修理船、使鎌束便爲船師、送新福等發遣、事畢歸日、〇略中 海中遭風、所向迷方、梅師水手爲波所沒、

〔續日本紀三十 光仁三〕寶龜六年四月壬申、授川部酒麻呂外從五位下、酒麻呂肥前國松浦郡人也、勝寶四年、爲入唐使第四船梅師、歸日海中順風盛扇、忽於船尾失火、其炎覆艫而飛、人皆惶遽不知爲計、時酒麻呂廻梅火乃傍出、手雖燒爛、把梅不動、因遂撲滅、以存人物、以功授十階、補當郡員外主帳、至是授五位、

〔空穗物語菊の宴〕大將殿には、上巳のはらへしになにはへ、かた〳〵おとこ君だちも、のこりすくなくおはします、〇略中 ふね六に、ふなこ廿人ばかり、かぢとり四人、さうぞくゑらび、かたちをとゝのへて、〇略下

〔土左日記〕七日〇承平五年正月 になりぬ、〇略中 この長櫃の物は、皆人わらはまでにくれたれば、あきみちて、舟子どもは、はらつゞみをうちて、海をさへおどろかして、波をもたてつべし、十四日、〇略中 舟君せちみす、さうじ物なければ、うまの時より後に、かぢとりのきのふつりたりし鯛に、錢なけれ